

	刊	行	物		
			余	録	

『人と蔵書と蔵書印—国立国会図書館所蔵本から—』

国立国会図書館著

雄松堂出版 2002年10月刊

331頁 6300円

本書は、『国立国会図書館月報』166号(1975年1月)から477号(2000年12月)までの巻頭をかざった「国立国会図書館所蔵本 蔵書印」(その1~304)を収録し、概説と印記索引を付したものである。

本書を纏めるにあたり、どう排列するかは最初に悩んだ点である。この蔵書印の連載記事は、これまでに2回刊行されている。最初は、1から80回分が1985年に『国立国会図書館蔵 蔵書印譜』として臨川書店より刊行された。この時には、大名、武士、学者、機関に分類され、時代順、地域別などに編成されている。また、1から233回分を収録した『国立国会図書館蔵書印譜』(青裳堂書店 1995年刊)では、官公印と私印に大別され、官公印は幕府機関、政府、学校、文庫、藩校等に分類して排列され、私印は所有者の没年順とされた。今回は、私印が公印の4倍と数も多く、私印を先にもってくることにした。その中は、五十音順で並べ、公

印は、行政機関、教育機関、藩校、調査機関等、寺院の順とした。

本書は、月報掲載時の原稿を元に行っているため、時代により、また執筆者により旧字、新字、正字、俗字が不統一である。印記索引作成にあたっては、印記の字体の採用の方針として作業を始めた。しかし、草書体の印記では、旧字と新字どちらの字体を意図しているのかわからない。見慣れない漢字の使用により索引が引きにくくなるということもある。そのため、かなり作業が進んだ時点で方針を見直し、すべて新字とすることにした。また、月報掲載時の原稿を元にしたと述べたが、執筆者が一部加筆、訂正を行ったものもある。その部分だけを出版社に新たに版下を作製してもらい、元の原稿にはめ込んだので、元からの原稿部分と新たにはめ込んだ部分では字間が違ったり、微妙に字体が異なったりしている。版面を整えるのに、出版社の方に苦勞をかけてしまった。

ヨミにはいつも悩まされる。印記のヨミの典拠とするものはなく、常識的ヨミと思われるもので読んでいくしかなかった。たとえば「忠順珍賞」である。どちらとも決められず「タダオサチンショウ」と「チュウジュンチンショウ」の二通りのヨミを出した。

改めて出来上がってきたものを見ると、索引だけは、横組みにしたほうが読みやすかったのではないかと今でも心残りがする。

(古典籍課 村山久江)